



乾杯を
もっとおいしく。

NEWS RELEASE

サッポロビール株式会社

サッポロビール岡山ワイナリーに 太陽光発電設備を導入

2023年7月より稼働開始し、CO2排出量を年間で約222t削減



サッポロビール（株）は、脱炭素社会の実現を目指した取組みの一環として、7月1日に岡山ワイナリーへPPAモデル（注1）による太陽光発電設備（注2）を導入しました。

当社生産拠点へのPPAモデルによる太陽光発電設備導入は、2022年の群馬工場尾島事業所（注3）と北海道工場（注4）に続く3例目ですが、ワイナリーへの導入は当社初となります。規模は太陽光パネル696枚で総パネル面積としては約1,796平方メートルで、設備稼働による年間発電量は約407MWh、CO2排出量は年間約222t削減される見込みです。

サッポログループは、2022年11月にサステナビリティ重点課題の全面的な見直しを行いました（注5）。世界共通の喫緊の課題である「脱炭素社会の実現」は最重点課題のひとつに掲げており、その解決に向けた企業としての役割を強く認識し、SBT認証レベルでの温室効果ガス排出削減目標の達成にむけて取り組んでいます。

サッポログループは、サステナビリティ方針「大地と、ともに、原点から、笑顔づくりを。」のもとに、サステナビリティ重点課題に対する目標達成に向けて取り組みを進め、「持続可能な社会の実現」と「グループの持続的な成長」の両立を目指します。

（注1）発電事業者が事業者の敷地内に太陽光発電設備を発電事業者の費用により設置し、発電された電気を事業者に供給するモデル。

（注2）太陽光発電設備の設置会社：中国電力株式会社、旭電業株式会社

（注3）https://www.sapporobeer.jp/news_release/0000014487/

（注4）https://www.sapporobeer.jp/news_release/0000015449/

（注5）<https://www.sapporoholdings.jp/news/dit/?id=8991>

以上